三世の光

二

182.85
Ko518m

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m

ガラス使用

其時小釈迦如来を善恵菩薩とそやし奉り率天
上におゐて一切功徳ことぐく具足し弥勒諸天
法をとのせのびまく昼夜六時に天眼をもて此世界を観見勢
ちせのふいうなる衆者の苦悩をうくる糸又志を起そとえたまひ此
世間小病苦孔者なきバなし良醫のかの如
ごひ貧者なれバ長者高貴孔如を現じてまつしきをすくひ
なまひ子孫をもとむるものあれバ為よそ孔如
女に孫なむすびなるは短命の相を現して父母は毎常孔理を示
しふ又は男子女人乃身を現じて執著孔心のふかき者にえんや

国立国会
25.3.31
図書館

112254

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

むすびの系時々獅子虎狼乃すがたとなりて諸の畜生に孵をなす
むせるひ或は滴盪の衆生孔雀の身を現じてえんを錯だ
せたまふ又人民孔なる時は國王大臣と現じて内孫をもうけ
或は出家仙人の相を現じなまひなどかくれごとく一切衆生ふ正
法れえんを猶だせるひ塊率天上にむちゐて衆生孔根機の
熟すふなきせるふ人寿百歳の時ふ成佛孔時いろふことをみづから
もろしめていづまの処ふ生をうくべきとおぼたこのとき
三千大千世界乃中央なれば此処ふ生をうくべしと中天竺ふも形くれ
ふ天竺ふ十六の大國ふ分て各國王おはまた中天竺ふも形くれ
國王おは海ふけまども父帝母后ふ孝ふけざれば母后ふ孝ふけ

くれば父帝母后ふ孝ふけ中天竺の中ふ劫毘羅城の浄飯大王ふ劫初よ
りあひうけて金輪王の内なるがれみて此ふ生をうけさせ
給ふまた摩耶夫人も父帝母后とも孝ふけまどなく一せのくふこれふ生をうけさせ
給ふ去五百生ごのうち菩薩乃母君となく一せのくふこれふ生をうけさせ
給ひ無上正覚を成ど一切衆生を済度せ給ふのそんと内決定せ給ふ
なまふ七時光明をもちゐて十方を照ーのふに此光明上色究竟天
より下無間獄まてのまねく一切苦悩の衆生ごもぐく解脱をおえ
法とおんそれときに菩薩に五衰の相あらそれのふ此ふすいとゆゆ一ど
はぢ上乃無上ぼだ二ゆは腋下ふ汗ぞいづ三ゆは衣裳垢ぢく四ゆは疲れ
威光を失なふ五ゆゆ本座を多ゐーまびすべて諸天合掌ちまゆ時

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

みはけるすいろ相あらそふ事なんいふ塊率天終れば徒衆ろ
此五衰の相ね現じ来るを見まつりて愛着をなげてなきかなし
むそろゑ上忉利天に至ふまできこえけるとそ其時ふ諸天阿修羅宮に
入ぬく塊率天上に登つとそ云ふ善法堂に入ぬく天上におはします法
蘭云諸法は無常なる生ひふもれは滅せんとふことなし〳〵急ひ
天上より人間ふくだり生じて一切衆生を済度せんと志ふらん
人間世界中天竺ふは四月八日浄飯大王摩耶夫人と摸倣み上さを
しふして百人の婇女に圍遶せ〳〵れ音ふをそうしなどそうとんらくを

定給ふ時〳〵も氣こそなけれやうやてよろ
るびのそもろ〳〵苦悩するき世のさ為也その夜摩耶夫人七寶のゆの
上ゆまどそまきのふよふ星宿時四種の地脱ふよふ二ふハ七宝の瑠璃
みは六牙の白象虚空よりくだりて右乃胁中にはいり給ふ三ふは
を為ふにまとひて七宝のゆなぐ〳〵こそ
七宝の山あり其いく紀ふ為ろづく〳〵愛のひてかゝる
ひてそまふハ恩のやうに見れ四方は四方より救百萬の人来りて皆
かうべを地ふなけてねし生死をを何そをせてさせるひけまハ
ふ此も何心もいとなきこと世にいまざおぼえさせな
たねだうの中ではゆまけるそ更ふより夫人ゆれ上に為せるひいとまづふ

ゆきぬを設めさせのひて大王乃ゆまへよけ養を養ひのくばやがて博士
を免して所愛おそらを召せのふには相師の養男ひまるは大夫人ゆは
きさいの妊娠あるとも乃もの妊娠なひバ三十二相をそなへる男子
誕生ひぬんこの王子男位ふたりせのそで金輪王ともさらせのふべく
もし出家せバ必ず無上正覚を成ぜさせのふ爾ひとやがて大王この
占をきゝ歓悦ふ多させのそ仮使先金銀七寶象馬車乘など
いろくおもの妊娠羅つおろくさせのふひぎろるれその日ゆ
天竺の中に目もひたる者八目を刺ゝきゝ耳きゝえぬ者もよく聞ひ病
者もたち所ふいえぬち貪欲瞋恚愚癡ゆ家中乃甚煩悩ことぐく
除けて心清浄になりぬ摩耶夫人ことにその日ゆ胎内

共ふ大安楽を覚えせのひ静ろふをこのま世間乃欲をいとゝせ
ふ甚財諸天善神悪ゝく摩耶夫人をまもりのひて常に四天王
ゆこのもとらをたれもそのそび身一ゆは利力をとり身二ゆは羂索を
とり身三ゆは鈴鉞をとり身四ゆは弓箭をとりてまもりせたまふ
趣じて人間妊娠乃ひは悪鬼神乃つけ
隙つふようて福徳善根すくなきこ乃子は
乃もバ諸天善神乃まもりあるて胎内も社どうに母もやみなくして
生産事やすゝとふん菩薩は無量劫の善根力のすぐれるゆほとゝもに
ひゝな毛バ地上天上の諸天神祇いのでうるものバ甚時夫人四大海水を
おみやさんとの由そろ起らせのふそでふだる乳毫を大王へ養すふ大王

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

なにあらまし此事ども聞きこしめしたくてはべり
南心もやすのごべ南御をいでやうとされたまふ大王もせんすべなくて大臣を
あつめ先だせのひお祥儀のうらに智恵乃大臣養ーやはるく八世の常な
らぬもとゝみてはおはしませは南志廣大なる王子をそれぞしますべー
大王ちゝばいうぐーて夫人乃心をやすめまるゝーせんと宣へはこそ幻術者
をたのまてもの里ひなんおはきこめてその方便あるべーと答へやされて
劫比羅城の内に赤眼とよへる人の外道仏術世おこなひ
まは竟をなんおもれけるにそ夫人こゝろびおもひ海水をとみうりるそん乃言乃
おこらせのへバ赤眼これを聞つゝこはうぎさ
うなき吉祥の御相をもそれぞれまく家術をもて大夫人の御心をやすめ

まいらせんとおぼしてそ大臣に勅しのひ一切ものゝ
集をおゞそれいせのよ大王南悦なれ名ものゝ
あまたつれ夫人は一切ろうごくにつるの御者を悉くまねの
まいらせんとおぼしてそ竟を大王ゝ奏

ごくれあるをれく罪の軽重をとそ区悉く
なる者をも悉くめぐみのりてまんとおぼしくすく勅して
まひ病苦を除きて一切孤獨貧窮の者をなのめさせのひ悉く
金銀財宝衣服穀米などを施し位なき者みは各ゝ
さげ位階の尊人みな位階を加へ男女人のもろ〳〵
こびごとにのぞみ身心安楽ならせのふそれより次第に病胎
内増長しのよまふく不思儀なこと芸おもしまく人間をひらき
のべ善人のもろ〳〵をたゞひ給ふ病苦
内なるふ菩薩七宝の池めぐりをいたゞきかゝる
芸ひせのひ給ふ日れよりそまでハ梵天帝釈れどの無量の徳天な

そゞめ給しくて礼おし菩薩の内説法を聴聞しのふまく
安らことをこ手思のひて諸天と芸それ病胎内
諸乃神祇まりて礼おしのふて菩薩おのくそれ為に法をとせのふ
夫人も又芸に供せのふ一塵の中に又無量乃智恵寂定をそなせのふ
病目を到きるハ事のごとくに王宮におはしまく人とう
かろ〳〵の楽をそなすふを見のふ病苦ともぢのへバ諸天神祇と芸ふ病
法を聴聞せさせのふ其道場の荘厳乃うへ
玄孔繁乃友ぶ愛きみもいろ〳〵となんさまバ夫人とう
ぢ病せのひて婇女乃音楽などはきりん事ともおぼ〳〵古ざりやうく
十月さち経へるころおひ大王に養しのふくこの宮れ内はあまうにさとゞき

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

そも尼宮へ出て拝び給ふ事をと教ひのふ大王勅して天示城孔中
なる藍毗尼園かもろくの園乃中にて一に勝れたれバそこと
して藍毗尼園は梵語にて此は娑羅と云ふめう木の名也そのめう木ハ夫人
此名也そのめう木ハ夫人この木の下にて産給ふ故に名づけて藍毗尼園と云ふやがて天示城より勅使
をたてゝ善悟王に此ぎ給はせのひて此藍毗尼園を荘厳しのふたり
又花の木どもをうゑられなど多く出泉のかとあり七宝孔欄楯をまうけ
処ぐに宝の池をこしらへそこに水鳥をおよがせ又ろくの妓女をおの
免音楽をなしなど所をこゆくうぎうの限りをつくし形
夫人を請じ給はせのへハ大王夫人乃御料とは七宝の輦を法うのひ形
世にすぐれあまくれ嫁女をえらひのひて法通と名ケ釋尼に命じて四
軍をそなへけるごとし此のせのふにて摩那夫人藍毗尼園にゆきなしのへば

天帝釈他化自在天等孔諸天各天宮乃香美妓楽などをうして后
従供奉しのふいよくの御心にそろくとゝのひて
若身心にもろくの病あらん者はまん人乃御名を
唱へバやまひ悉くいえ安穏となんさるなどゝ四月八日の仏
誕日乃出孔ころひの園におゐたちて御覧じ渡しのへバ大きなる無
憂樹の木其花色香あざやかに枝葉志げりなびきていとうるはし
けまた曼陀羅華を描のそんとして右孔御手をあげさせのふにその御服より
をのこの子生れ出せのふに財夫人乃御身からくの膿血なれどのけがれも
なく御心楽しくすこし孔苦悩もおはせず樹をよぢてたせのふ
このとき大地震動し天地あまねく光明乃望あり日孔ひのの

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

たざる処おそひ徹てひきてこのなる王其の時其座生かさにはず免て
それ面をおほそて各云く汝ひとりこにあらず余の人も皆さ
生まれてこにありといふことはて善薩出世乃常法みて人れたすけをま
たにやでて四方に七歩づゝあゆませのふ先始め東方ふむそせたまひて
是はこれ東方諸は是一切衆生の最上なり南方ふ向もせのひ是
はこれ南方我ら是前生に供養すふ処也西方にむのそをのひては
今決定して後生をうけて少方にむのそせのひ我今こそ生死乃
大海をいでと宣つ其時諸天まに白蓋と白拂とをとりて太
子乃上におひまつ又龍王ありて冷暖とくそへは二種清浄の香
水をもて太子を洗浴し善薩が善薩誕生しふ例とて其内母孔

大妻嚴理ふ八もちまちに四井を生し其
水香潔ふして八功徳をそなふたり大王ふは諸天
散し梅檀沈水を太子にそゝぎ善薩誕天乃音楽れ多れのゞつに
ゝぐときこえわこまありひとりの青衣れ賢きあり蓋毗尼園よを
宮中にこの王大王乃ふまつふ出て大夫人すでに太子を降誕しつふ
さ陪よりも世ふためしなき不思議れ瑞相多くおはしまし事どもいと
こ陪やうに美しきまをまをば大王ねそこ古ふ悦びたゝちせのそて
先ふ身れ瓔珞をとゝせもひ彼青衣にのこやでて勅して四兵をこ
里一億乃釈迦種を前後よたこの蓋毗尼園に入らせのふ彼里のち
ふは天龍八部ふちくわはて夫人れ供ひとにおはゆて見まゐせの

は常だふ勝まのへ国のんハせ孔まる調和柔輭をまゐらせのひてゑみ
さこのえ比せる海中にをこのわ虫のへる太子の虫相好世の常なるに
れどはやにんも申しおろのなるをを見んをらせのまふく虫心をど
又ようごこのせのふ事大海の波乃さもさるぐふひとしひ大王を虫ひとゝな
りせふこえてお静まめのひ常ゆやゝ憂喜れ悦ふ色霧の涙をしき
ゐもあるまま比せのふことをおはまさめを今や太子の御有さまを
凡ならせのひては一度もよろこび一度ハなそれ比せのふもことわめな
又とそゑやをめりのへつま其時吉相迷山の石窟れ中ふ阿私陀仙とい
仙人あめ鄂に一切世間孔興衰乃相をこゐをそまりひとめれ外甥の
子となめたるなりの名を那罗陀といふ光明乃瑞をみて

巻二之八

いやゝみて仙ふとひけゝくまことゑ悪世あは二の日れなるひ虫ゐ事なめと
哭給ふこ今比窟ふこのひとりあゐは彼日れなるひとゝもまたれるまあら
ばやと仙谷てゑゝく日れ虫ゐのうちやあつまりて明浄なるひ光明ばき
ようしてすゝくれ山窟をそこのやうすは定て是半尼のひうめなん
菩薩乃神通大威徳其母胎をいでのへばはひうめをけゝそゝのよ
清浄明朗ありて真の金色なりめあまたく諸の天地ゝこゝなめ那罗陀
ちあゝは永新教師にとこごひひて菩薩をこんならん事をねぶ
仙云く彼ぼこゝを大威徳ありて天龍八部ゐ称ゐ称しまれば種と
を見ま虫ことえごゝゝん若趾比罗城こへせるひ三号宝らせたま
はで芸に継て又ま虫ぶべゝといへこそもくひ菩薩生れ出させのよ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

時五百孔宮人におのくひとり乃男子をうむ贊釈迦といへる其上首なる
尸又各一女を生り施尼といへる上首なる五百乃大臣あを各ゝと
りの男子をうむ烏陀夷といふを上首として五百乃象お子を
うむ上首を報灑陀子といふ五百乃馬もみな子馬をうめり羅呼馬
子を上首として五百乃宝蔵おのづからあつまる四方かろくの國
王等みなたまぐ物をもちまゐり献じて奉事したてまつる時に大臣
かく善事のはつまれ給を見て大王に奏しまれば大王おほゐに悦た
せ給ひ家ゐ太子一切かろく善事業を成就あるべき号をは成就一切
事となづけ奉らんと勅のたまふ梵語ハ薩婆悉達と云ふ是はすべて何なる名乃
ぞらせ給ふにより兎猫にて人家等くつ称に
勅比羅城かろく孔釈種貴ほとり兎猫にて人家等くつ称に

て悪暴孔ふるまひのこあんなれど太子こゝひ
ばゝ悉ゝびまりおひのちびきて一ゝをゐぐすくめ
種いま太子を見てするいちたけき心をすてみな寂静めて羊尼
子でとく黙然たりけり猴をもて太子を釈迦羊尼と名づけまるべしと
これ才二ゐ名乃定らせ給ふなり勅比罗城にのへり入せ給そんとて
先太王又手合掌しをろく孔天神を祀りのひはりて太子をいだき
のぼり七宝をもてかざれる象の御車に孔ぼらせ給ふ諸の羣臣後宮の
妹女もろこびまるらせ空中は弦更そ孔彼楽をれ波遥して入らせ
給ふ彼国乃なこひまして王宮に御子うまれ給ひぬとまをしたまふ
ではせ給ふさまをばこたびもまゐ天寺にまうでゐふに梵天乃形像座よ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

空に立ちひて云く太子は天人孔中第一也虚空の天神もみな悉く敬礼し給ふ大王是を見てやいのいてこにまりて礼をなすやと大王もろく釈子摩訶と共ふひ奇特を見きこのせのひむこのようにいまざりしばふことれうことおどろきあやしみ驚しのふこれよう天寺を出て後宮に入らせのふ天神この太子を礼拝しまふのの条天中孔天ものおはしまさば何名を天中孔天とやなるべしとみことれうしのふ是寺三の中名乃定らせのふせこれよう本宮におはしまして養育せのふ事おろそなくしかろく乃乳母番湯をもて洗浴し婢妾を身にぬるれど種くに荘厳しまうつて日ごとに大王乃御まへいざ知なくせまるらすれバ大王ひさの上ふおりせのひ形孔せうめぐらふ

あやしきはてぬにおはしまして是をかぎりよろくよろこだせのふことわるとも申もせ孔ろもし又彼國のおひ子うまれさせのへば梵切れ相師名されまみうそ相貌を見まふことおぞありてふうらなせのふ相師婆羅門大王に奏しやまふこの太子は実ニ三十二相をもそなへ生家なれは金輪聖王ぬて四天下孔王とならせのひ善法をうえてせををさめちせのひ七宝をそのへさせたまふ是そ出家しのそく一切煩悩を成就一切衆生を度しのふ是上人間孔中の最尊ぬそおはしまさとやなく大王きこのせたまひて打かぎうあう成だせのへ婆羅門又いそく香山の中に阿私陀といへる僊仙ありそて五神通をそなへ給ふこれ名まて相せさせのひでこまやうに奏し

なまゆるくとて遅ざき歩め彼香山はるさうけまバやすくんの行迹きゐ
なくていのくせ仏法のそんと念じたゆくもせ
仙事のて云く彼太子今は劫比羅城ゐ入せのひて父王すでに三號をさ
てたせのくて時まれるにいつずやこゝ神ぐのもたくは帥と芸ふまうて礼ゐ
し膳仰し奉らんとやうを阿私陀仙今八幽ぐの心うぢべしとそやぐて二仙
そらを発行し劫比羅城ゐらんとすゐ太子孔威力ゐおりそ神
変を実ひ城ゐよゐ若ひ子のゆみて城ゐ入ぬ大王乃門ゐ到二仙童
子よゐ事ありてとを告け童バ大王きこゐ驚ぐて太子を見なんことと
を待てか仙をむかへ宮ゐ内ゐ誘ひ入せ終へて善言向許
をこうて向のふ今大仙ゐふようてうききよゐ事ぞ何事なり求

免たまふと仙答て我ら
を郭ふ采香山にいるて大光明かろく
大王内ろろに念じのふをおうて喜くく
実せのひて大王夫人をふ内悦法
のひ仙人を礼しのそんとすゐを仙人とぐめまあらせ是は三界の
中礼ぎるふておは御身をいそでこの家我礼しのそんとそづから
起て太子乃御足頂礼しまゐいて仙人ぼさに帝相をえ事
うらなひ申あぐしほろくと涙をおとしなきこの好みいみえ
たこの法ゐもたゞ王も夫人もそれを内論してあやしみとそせ
のふ家太子は見ゐのそれめでくつぐうてを

なし仙孔不祥の相ありて学ぶ者ひとりかく滅をバ落しつゝみ仙人答まうして太子ゐはりともゐ市相好悉くそれそらせたまひて文ゝすこしき不祥もむそて滅さんと申さば王いそくらはば太子輪王乃位に登つゝ四天下を治ん相ありやと仙人答てり家におはしまさゞ事十九年て転輪聖王の位つぎ給はんこそ此のせのみべし されどこの太子はのならば家を出ぢせ給ひて毎上正等菩提を成じ久しからずして清浄法輪を転じ人天を利益し世間のまるこゝ紙ゐらのせの少べし齢すでに今年百二十歳つなぐつ久しからず命をそう無相天に生ぢ給きなゐまゝバ仏を拝しなまらぢ妙法をを聴聞せばらんことをおりひてこの私ひふたゝぎほのつと

とやてなく王力手をれなひてはゐは空家なゐは輪聖王孔位ふのぎ給べゝといひ今ハ決定して一切種智を成すべゝ空のたまふこそいこのまゐる由ぎゐ仙こゝて家相ぎ法にり三十二相ぎそれふるとも其相或ば其処つ生ぜ其文あきらゐならばるはのならば輪王とならんり三十二相みな其処を好甚の文又ぬきぎの処は必定して一切種智を成ぜんとまりぎ今太子をえま法相続処を好文まきそあて明なまゝば決定して正覚を成しのふべきをゐれをとゐ仙占相をそりて私陀仙迎き空んとゝ大王大臣に勅しのへバ宮人をゝ衢をかざり法の幡蓋をつけまつり私陀仙迎て出城しまを法人らろのゆに社でみえる

廓一國中一告令王一切依法乃至長者居士婆羅門等前後圍
遶一時俱會爾時世尊告大王宮中所有一切人民悉令
集會大王當知仙人所住名曰摩陀山其山縱廣一百由旬
地平如掌多諸泉流華菓茂盛多有種種諸鳥獸等大王
汝等應當隨我往彼山中大王我於爾時為欲驗試阿私
陀仙人故即入三昧以神通力化作一子年可七歲端正
可愛在仙人前經行遊戲仙人見已即生愛念心大歡喜
前抱此子置於膝上嬰兒得已即便上樹果食與之嬰兒
食已還復下地仙人見已常樂隨逐時彼嬰兒即便捨去
更至餘處仙人見已復隨逐之嬰兒復捨更至餘處仙人
亦復隨逐如是展轉經歷多處大王汝意云何爾時嬰兒
豈異人乎莫作異見所以者何我於爾時為阿私陀仙人
故現此事大王我於爾時為欲調伏阿私陀仙人故現如
是種種變化大王我於爾時為欲調伏阿私陀仙人故現
如是種種變化大王我於爾時為欲調伏阿私陀仙人故
現如是種種變化大王我於爾時為欲調伏阿私陀仙人
故現如是種種變化大王我於爾時為欲調伏阿私陀仙
人故現如是種種變化大王我於爾時為欲調伏阿私陀
仙人故現如是種種變化大王我於爾時為欲調伏阿私
陀仙人故現如是種種變化大王我於爾時為欲調伏阿
私陀仙人故現如是種種變化大王我於爾時為欲調伏
阿私陀仙人故現如是種種變化大王我於爾時為欲調
伏阿私陀仙人故現如是種種變化大王我於爾時為欲
調伏阿私陀仙人故現如是種種變化大王我於爾時為
欲調伏阿私陀仙人故現如是種種變化大王我於爾時
為欲調伏阿私陀仙人故現如是種種變化大王我於爾
時為欲調伏阿私陀仙人故現如是種種變化大王我於
爾時為欲調伏阿私陀仙人故現如是種種變化大王我
於爾時為欲調伏阿私陀仙人故現如是種種變化大王
我於爾時為欲調伏阿私陀仙人故現如是種種變化大
王我於爾時為欲調伏阿私陀仙人故現如是種種變化
大王我於爾時為欲調伏阿私陀仙人故現如是種種變
化大王我於爾時為欲調伏阿私陀仙人故現如是種種
變化大王我於爾時為欲調伏阿私陀仙人故現如是種
種變化大王我於爾時為欲調伏阿私陀仙人故現如是
種種變化

迦旃延といふ甚時に大王阿私陀仙が太子ハ必出家せさるべしとう
らなひをうるを聞て心たゝしまさに彼をせめころさんとおもふ
まゝにことを聞きうれへこのゆへに母ハ
とゞめまもるせのそんとおもふをおゞさけ百五百人の青衣乃心たゞ
しく賢きをえらひ姉妹とそなへ
侍為ふ三時乃御殿を造らせ皆七宝の荘厳あり甚の御殿ハ
すゝしく冬のころハあたゝかふ春のころハ
を植させのひ御身に水をさせのふ衣ものくふもさゞび
てきようらをせくさせのふ御母摩耶夫人ハ太子御誕生の後七日
をすぎてかくまさせのうれと御姨を母摩訶波闍波提これうら

うづうこれ御子にことれらぶいたうみのうつくしきをもて
摩耶夫人ハ菩薩を誕生まいらせたまふ
ませバやのて切利ふまれさせのひ彼天ぜたのうみをきゝめさせた
まふといふ太子やうく御年そうらせのくバ大王七宝の御冠と瓔珞
をまゐらせのふ又象馬牛羊ぞ車をまゐらせのふ甚御世の中ぜ童
子のほどもそくあそぶおとしいふはまるらせのそぞほなり甚時天の
下五穀ゆたのふおゆうく風雨も時ふのやうひく民ぞわざわひ
す名うき曼陀太子の御徳ぜあやまてれそうますのゆゑとそ
御等七才と申ふおとせのふハ今までは御抱びてみまそをのおとせ
のふことおそうまけるを御年やゝまさせのふハ今年より書を

敬まわらせのそんとして國中の聰明乃婆羅門のもろ〳〵ゑ書藝をよくすふそのを請じ多まひ太子の師師と定めはせたまふ時ゐひとりゐて跋陀羅尼といふ婆羅門ゐの大王婆羅門ゐひ多ひ多る者をよびゐ太子乃師とたてみ学えんみなるとうけひきなゐまゐしやとまふくバ婆羅門答てこれど我志ゐ所ゑ及ふくさりをせらんといへりてさして大学堂を造らせるふその諸撮七宝をもて荘厳し林撮学具いとまやのふそやびをきもめさゐ吉日をえらびて太子を婆羅門へいさりを書を教へさせるふそれ時婆羅門四十九の書字乃本を捧もりまもことを教へ多ふ太子これを申詮ど師おとそせのふ芸ハ仏乃ゑ書で離浮捉の中ゑ一切諸書おのそ数もく種ひろや師點然として答へまふ〳〵ゑ又ふうさ称て問せたまふことをもゑえ答へまふ〳〵ゑ心ゑ内ふうぎりなくもちおゐひて座よりゐ立太子ゑ申足を礼しまゐ讃歎していふくわまきく太子もゐて生れさせるふとき七歩あゆませのひそびのら人天乃中の最も最勝なりと孔たまふと今日志ゐる其ゐ言葉のむなしからざ事を知くは衆為ふ離浮捉乃書孔種〻を説せ〻まふと太子答へまふ離浮捉の中ゑ或ハ梵書或ハ佉樓書或ハ蓮義書かくのごとき孔ゐ初ゐそ六十四種ひろやと笈阿字の義をとかせのふそ孔義無量無邊ゐて奇異なるのふならび法乃童子乃為ふ諸字の本末を一〻明ふかふ別し無上正等乃道のこころを招し

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

のふ婆羅門これをきゝてなほもていよ〳〵憤の心をまし〳〵大王のゆるし
ようでく妻子と養ひ太子はこれ人天の中孔雀一の師なり大王いのん
で永おこゝろさを師とこのふやとやひて大王婆羅門がやひあを咲せ
たまのひむのしよゆう〳〵添ためしをバいまぎきゝを捨のせ、のそぶめなる
ことれまバ涙をさへ落しのひて悦せのまことうぞめなし太子ゆ年
十になせのふ時釈種の中五百の童子も大やうおなし師よハひ
なめ相好を皆世こ勝れて三十相又ハ三十一相をそなへのふあめ
或は大力なはしゆて各技藝などいとをほらそひのふ太子ゆ
伸ふ藝能みな通達せさ勢のひほ名十方にうくれなきを儲ひ
童子たちゆのひて太子は聰明みてよく書論を解しのは諸

藝ふ達しのふとも力だうはよも及ハまさ弓矢のみやまこそ
まゝくは時をえて勇健をうら顧んみをよめくひそみてこゝろ
ひのつゆ浄飯大王これをきゝ百て國中ゆよく弓いる者を先
し太子の師とせさ勢のひての ち阿泥日うしろ女ふ師の室に御財場
のまうけあめて鐵丸けづみをまもとれせの時ふ彼師一のふ弓をもて
太子ふ授奉れ太子見て忽みを妙くませのひ藝能ふくて
仍事をなせのとの師いそくこの弓鐵鼓をいけせまらんとなり太子於
なまはくけゆうはかなしはしふ強き弓ゆ七ツ弓なふを抱まれとも
まひこひてやでてその弓もていちせのへるにの乃七ツ鐵鼓を射とは
しつゝねたのふを見おどろきて師大王ゆ前にまめり太子喜しくも

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

そづこの弓射藝を習はせ給ふに一箭をもて七鼓を射とほし給ふ
溜涙拭ひ喜べどを太子になし奉らんとおぼしめせども
とも叶はざるも帥と成り敷まゐらせ給はんと思ひきて奏し
まバ大王きこしめして成れるべく恨せ給ふこと心ふ念じ給ふ
明書論算數をくきこえて天孔下にならぶ者なし射藝はい
まざせ給ふこえば民藝をこころみさせ給へ
んと勅を下し鼓をうち國界に告て今日より七日ゝのち後參
ふ給へて太子拘婆達多等に誘釈の童子とをして民藝を
こころみ給へバをろく人民の中ゟを勢力ある者は悉くまゐる
べーと唱給ふそれに薜舎離塵のなかに一の好象を

その象かち世にすぐれそれ徳そなへまゐ
今淨飯大王孔太子にのりて金輪聖王乃内位ふ孔ぞめまふべき相
おゐけるとゆつるふかふ宝象孔世にならぶ者もきゝめてかれ
威徳の祥陽な象ーいざやこの釈迦太子にけんーまらんみやこの
じといさゝぐかどこそ其象を荘厳しこのくてもるく劫
比羅伐多聚乃象を牽出ゐーを彼太子等乃民藝をこころえさ
せ給ふ日になりて王の門ゟ著到まゐりけな
ゐそをろく孔童子きそひあゐまゐる乃
きんそくおゐれてもれよりもやく城をいでゝ彼へおもむきのよ
ゐこの乃大象あゐ引まねるがまゝのくさおこみてかろくれ軍衆

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

すみやらに提婆達多いのちなれば法ぐてにとどまりてすまざらめやと
とひなふさ皆これ宝象を薜舎離城よる太子にまらんとてふり
来ふたのくれゐをのふ提婆達多これをゆるし
金輪王とおもひのそばなんでふらうでめ宝象をうまゆてまるやと
たちまち瞋恚をおこしを起し寵もの人びとのおもへだ象ふ地うたふれ
て死せふをそのまゝふておすぎのふ引てきて難陀王子出のふ太
子我が弟王ますおそ孔象のこにある象ふなふ太子ふまんとて集
象ゆく人のおてこゝろやかさてうなる人ふをまうたるを捉婆達多のこゝろのふなもとこれを咬ーていそく
捉婆達多孔ちわざいとそそーこれーこは提婆達多ごづのら孔

力ふ仏のおそめてなふべーさらば象もカ孔かどをゆるすべーとふ
しもふ象乃尾をうたそく大ふのこゝろくふ出のふ彼死象あり法
次り太子をろくのけんぞくをきて内よりおもへばこのくれゐをそく
人あのまふをゆるしてゆふをとそせのふへ
なる難陀王子乃路のふへ引せのふまでこまやのふきこゝろてお
殺したふはことのかに何ゝ路をとほぎはけたるはいとうとおぼま
ひあへ其象尾をとりてそふのふ城乃分みなまのふ七里ふー
て地ふれのそ孔ふの地おもへうるを財孔人階象の地といふ後
信心孔長者婆羅門けふに塔をたてゝ供養しけふとそ太子
象をかくまでせのへども傷損ずふところすこーをやーそ孔ふへ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

おばゝ神ていたそらせものゝバやごてよろみのごめて苦しむところなりけまゝば法くみそおどろ兒欲してふのく奇特のおもひをそすゝける
のくて太子難陀提婆達多弗法王子をはじめもろく孔童子たち
よりも四遠弘人民ふいたるまでみなまりのまめて吹圍の中にあ
里読乃釈迦童子象等鞠刀断樹のおそびをせんとておはれ樣の
中ふ入のバ太子をはにこの孔林ふらせなふ五百乃童子前後
にゐさゞひ多法釈の童子きそひて鞠刀をなげなふ樹みな
くぶけちまた太子も同く鞠刀をもあそびなふ力平のなれバ樹
悉くきられなゞらこのそたふゆくまれし法乃釈童子これを見
て象きく太子は菩薩乃威猛自在ふおそませば五技藝ふ

達しのそぎほ而れしといふ孔き バこ孔鞠刀断樹ひとまをもはた
ふしのそぎ孔ならんこくやこの小衛もあぎに達しのそはまバ余の技け
いめをもふ孫望のふ処なるべしとせにあぎみそしてふのひのふそのの
時天神あり衆人乃うたごひをとうんぐるあらまもに猛風をお
こすこ孔皆彼林樹をふけバ花ふ切なひしまどを一時ふとろろ
きてたふ音響して法童子みなおどろきおそまて其姆御小伏
しのふ次ふ弓を射のそんとしておはれてそ孔処ふおそしまバその
射場の称てきらふかざり七重乃鐵孔多羅樹と七の鼓とを
そなふ其間ふ各鐵乃箭をおきて是を射栞とし法童子これな
射たまふ一多羅樹を迅しのふはあらば提婆達多童子射るバ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

一多羅樹一鼓一猪をいとほしのふ難陀童子は二多羅樹二鼓二猪をいとほしのふ太子一箭をもてれちまくは其箭七樹七鼓七猪をうのちとほく地ふかく入てそれのなかれをなす水わき出泉のごとくにして飲こと尽ず法人希有のおもひをなせり太子の射のふ勢地物をすぎて水際こいたるに経を彫王その箭をぬきけるあとよりあめのでけるなかれとふ坂ふは信心乃婆羅門居士などしい泉のごとくにして両まをのべがの二王子をともて大地ごたふしのふ四達の人又をもて大王乃太子勢恵のこせ孔人こ向さをのふにあらず力勇も天孔下に又ならびなきふ

老いたりとめであくいよく敬ひおそれ奉ふ日こふ猶くの技戯をれーをへのひてはて各ゐ馬車ふて城内へかへり入せのもんとすふを法人群集して見奉其中ふかろくれ相者ありて太子の御威光乃せこことにおはしますを見あめでたまふ給きそひて相しまるすは太子今より後十二年乃中に出家せさせのそぶりせば必ず金輪王孔御位ふ登らせのべーとかに大王け相者孔云ふをきこしめし御悦りぎわあくこに群臣をなめせのこのれ相者乃ことばを告させのひふ添相者のうらあきば法人ともに心をつくして防護をくへ十二年の中出家せさらしむべーのれ金輪王孔位このからしめび法君とともに圀遠くてこう

ふたりの四天王を召んは樂しうすやまづあつたて宮殿をたて
形世ますまうまた童女をえらびてまゐらすべしと詔旨勅をう
けて宮殿をたて四季をうつくしたてみ
をおりふしにつれる種々なればその御殿もきよらなる
のお裁まで心をつくして免ぐらのにたうれしたることおもひや
べやうく御年まさせのふにつけても御志を
凡なまて詔旨大王ふたりの孫皇太子を
をたて、まゐらせば笑女をまゐらせて家を出させのふ志を
とゞめまらんことと左こうるとなくんと養せ、ふ大王家太子
欲こそまゐるは実こいまゞ蝉妙れ女をえのはさふのいふあの詔

君旨とめて天れたふをとめうちもんざ後世ますまうえんこび出てまゐらせ亜ばあけくまゐ
まゐくこのゐ、ぢ御心れうごうざんやゐでまゐ石におれ、くん詔旨このこと
ることれめをうけのめていくくにりこくもちる事をありぎをよりめる
くれ厳此乃具を造ると形よき童女くく
なんえその免びこのやふ荘厳れ具をろくく乃童女にのそせも
しその中に愛しのふゆけきのくあゝばは皆実乃肉ときとめたうむ
とおもる事ゆさて苦ゆうけとれひぬまバ彼かれ宝をそ荘厳
し造りたてる御殿こ呼子乃座をあく太子このおまに出させる
バゆおゆはるくれ珠宝くさくの瓔路山をなせり詔旨をそ免

天孔下に名をとゞろかしほん人ハ皆まのあたりあいまつるとあれど
童女ゑうたるきも恐ろしくまつるも其のなよくの心ゆゑ時うつりてかぎりのよそおひうちそて宮もそろふきそひまるほこはおのく
子親そらかゝり迎きる氣めてそろ内うとぐめ産れん事ひをやとおもひかけきまるほなくうめきるつぎなん太子えよりめぐみそどこ仕事を好ませのふ所本性みさハひゝきてたゞと思すんうけ時執杖釈種ふびとも子童女ありてこそ太子法子童女にあいのおも珠乃かゞやくの宝みそぐのうしのふそろもそうをまつることみさまふ女君こたくく

家ふもさそろめ子抱のなき事はあらじいのち惜ハ他乃物をそう
きん父又おさまふこそびけめづらしき事かなしてつゞくる中に仏ゆゑとまふ人あらば宮の内ことぐめらまんこのハ
后妃ともなり給ふべきとまふ人ありて耶輸陀羅是をきくより
よろこて妃とまつそぐたとゝみ子人をもとめまふこそ是ほうるびそ子大妃となんとおまへハ父君さそそとほゝゑまれ脱のびて
いそぎそうそ死給ふ法乃のぞみ仏世うめづらしきことをみ
くしのきそこゝふんとこそあらんやうふと仏ゑを西へ出さたゞの御侍りひとゝてそ仏人こゝをみみそまわて先てあぐ
さて内宮にいらせのこひて妻まくこゝふさ届くこちよろづさまふ名

もたるをうやまひ給ふ太子は御おとに立のふ隣れ童女まゐりあつまりて孫宝えうらくれと乞ぐく旋しはくさせのふ金指環あり耶輸陀羅乃出まて立のふをゆらんじ御指をあげさせのふそくこの耶輸陀羅女は久遠乃むかしよりまく世く夢に太子にはこのへまゐりちぎりあさこのくきばおそれのふけしもあくやでて師子座上に坐のゆびなる金指環をとりまのふ群居諸人せに見をとめこれ女君八族姓ことにたふとくおそろしけれども強乃童女ふたりのけて仰るべくもあらぬことにうえさせのへはまゐまのこして太子それゆかさそしてなまじひにうまゐせのへぐうへなる

中らにふこそとよろこびあひて大王へ申ふれあつさ海つぶさ小姜しまれバ御妃なれめ好ひ給きれ勅使あまて執杖釈種へまらせのふかしこ御めのひてそのことをまゐらせのふ大王さ御日をえらび宝て二男乃嫁女をまゐらせむへのへは耶輸陀羅女太子をおそまゐめたまふ拘成佛しのふ御子羅睺羅ふ善堅とふ樹孔生ずほことあめその木はず先おひ出て一夜のうちに百肘だるめたちそひ枝日乃宝めを見るうちはされどらやうくふて摘かとるべく一夜日れひるまにたのひての強八刀斧をもてきれどもきまた猛火をもてやけども

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

といふ劫比羅城と天示城との間に虚奚多といふ大河あり悉達
太子生れ出でゝのちこの河岸にけ樹おひ出でゝ後ひ岸
ぐれはよく法波岸をうてなち石とも流ぐされてつひには猫風ふく
ことぐくあらそれてつひには猫風ふきたふされ虚奚多のこの中
ふ樸たちあけまバはぐりめれ大河のこの岸にせられて瀧やらび
岸にうつりて劫比羅城水あふれ天示城は名のまたの時く天示
城の王使をもせて浄飯大王に告ぐまく今大樹よこたふりて虚奚
多河ふ両まバ流るゝ名岸あまくべきぎられて甚國けのくにとそに苦も
大王孔國中あは諸乃童子おはせ勇健せりまさゝせのよ
彩らは大王みことをめしてけ大樹をみもしめてうまへをおそきた

まへと浄飯大王けことを詰ひきのそび
陀といふ大臣ふりめ大王孔申おこまるあ
もぐなくべき却ひそめふりめつと蓋大王
それよめ薗陀大臣河岸乃やとめ
孔ふ答をたらひきよめて孔ぞみそる
きて諸乃王子等却もまて撲び物一のそんことをす兜率
に太子をばめなめ諸孔王子たち宝の車にみめひて兵林
間へ却そまく諸の童子等浪ふもろ
おもく心くに撲でせのふそ乃お等一心孔兵原そを起浪るを
撲婆達多王子弓をとめ岸を射のふさあやまちび太子の体

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

摩訶おにおもやをつくりてそのうへに箭をぬきさして菓
などをいろいろにもりつゝへさきずたちまちにいえて花実をむすぶか
とに提婆王子弥座よりも使ひてやまさせるふ今弥あらく落る
雁は家射おとしたるなまバ我身をもかくなさふこのことを
太子これをきこせのひ菩提心をおこせしよう一切有情は
皆家もろ子なのいのなまバこの雁のごとくに
やまのふけ王子はきき知つゝよ世〳〵
むすびなふことを云ひてそれは弥へ王ことをなし
このへ王ことなめといたう恨いうめたまふしかの
うらみの余習おそまだ〳〵天示城ふは浄飯大王弥
の〳〵太子一切有情とハすでふ怨結を尽
のひぬまでたく提婆達多のごとは

うら国内のへ弥かめてそれ林を投ぜでかんとてあまさ乃人衆ののの
ふ出力をひきくゝをを引のハせ引さうぐきふゝもいとうまびすし
太子これをきこせのひかれハ仏弟子をメそと向せのふ薗陀大臣弥
まへくすみかう善堅樹弟たふまゝふうまやう友国のうれへとかを
めることと又天示城よめ使ゝてこそれたる仏やうふ成こゑやかう厳し
やさふまゝバきこゝめてもやう尻へくゝ告よ家ゆきてそれ樹をのぞく
ことはいとやすけれふことなめりとそれをまつそいそぎうこに告やうそ
子もろこびせを弥王子も内ませめそのひるふ疎こそれあやそて一
切毒蛇仏らるまゝ出烏陀夷仏毒蛇をえて太子を害ゝせらん

事をおそれて叫ぶをぬいて斬るにそれ毒蛇毒龍をもつて其の毒鳥陀夷にたきて殺れ其の毒鳥陀夷と世尊人よびを呑とそれ法乃王子等ゆう力を伺ひそびてこの毒龍婆王子すみの力をもて毒を抜たまへばこのふうごその難陀王子はさぎてすこし地をそなたちのふ次く太子すみやらせのひゆきたりけてそふなけきせのへバそれ樹をれて二ともに本来河乃南方に流まめく南國乃人民ともそせたまひ此善堅樹八冷菜にて能起病をすべくもすなり細のふきゆきて各わのの所へもし腫

物あるにそをつくるまいゆと告せのふけまそてぬればこふ御車みて劫比羅城へくらせのその路く鍾声聚落をすぎさせのふけ聚落小釈種おそてこれり喬比迦女といふ女おそびが高閣のえにはやて挌鏡しのふ太子し聚落おいらせのへバ御車止てお女そんとおぼして御足を指をかて御車をおしのへバこの樓ふ太子を見まの心太子それとしなり此時太子御まにおせのふ鐵杵を御指をかてまねき母のへバけ杵いと細りにそびけふ女も見をやぶりて御足を指なりて樓閣をおしのへバこの樓完なきぬへくよそなびくみて御力そくべてたをもれのふいとめづらのなる御まもれいつまも志ぐびてしけ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

釈女ぶ八太子も御心をとゞめさせ給ひ女もよろ
やきなつゝと大王はことをきこしめし御悦びなれめる〳〵にやがて
二夫の嫁女をうてむこの人はせ給ふこゝ二ゝ妃をいま〳〵さ世給ふ
又日ごと裏ごとにうとよき女をまいらせ給ふ世の中に御心おそはん
ことわりぞかをのこ給ふ人をめしてふうめの妃とま
ではらせ給ふやいなや御問きさせ給ふまゝにうまれつゝまた
らせ給へどそれみそうきハはゝにおもてまさでと養ひ給ふにもい
とあさ御きことにおぼしなげきわらせ給ふ日太子もろく
ゝ妃女乃雲林花もこれみもさうめなみ流る〳〵泉きよ
らふすゝて涼〳〵とうちふを折うめ雲にあそびの空をとぶ

ちて大王ゝ御もとに嫁女をまゐ〳〵せ給ふとやさしく悦せ
給ひ羣臣よみことわりて園親をとゝめ給ふ御路すゝめきよう
かみて兄どころ〳〵うんやうみとまうをさせ給ふふさてまとゝ
ゝ乳八太子父王の御まへおそうましてい御足を折り出せ給ふ
大王ひとゝ御旧話乃智慧ありてうみ〳〵しく又難台よきこゝを御随
従ふまゐ〳〵せ給ふそれかつきさゝげ給ふこゝあまた御ともの人〳〵いとあまた
さ紀よろもろ〳〵城の東門より車みて出さ世給ふ国ゝもの男女
雲ゝやうにおつまうみちて道路ふ塁をゝなをその中よ老ぼま
たをの人ひとゝあつまりて御ゝらの髪いと白う背ハかゞまり
てこうとくみなづゝ杖を投けんみて御子ゝ御ま人

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

ゐは学にうつうすぐれる人はみなこゝに居ておとゝゐたほうこまぐるに
又のふことおそしおきもばけ老人をゆらんぐゐやまぜのびこのまゝ
ハいうまな法者そと向せのふ法前なるく人是は老人そこそと綿に
又老とないうる法ものそと思そせのふ者とハはじめこの世よ生れ
いとそなきよめひとゝ形ゝそちとそれひうほそてうう形び極まゝまハ
もとゝそちゆく世れなゝ比月日志ぞゝくをとゞまゝねだやうく
よるおとろく事分よそゐ立居ころ社まくなゝびかくゝをれそそ
て命もきはふゐつるふを世よ老とゐ
ゝめてかまゑとうこれ老位法よあゝび世よ海里とあるく今まめの
法ゝまをそんや事月うつて此老れ社ゐるんことゐれぞまれ先のる

よゐ疾く法べし家位たゐとくとめることゝなゝびゐとゐどもけ
老れみハひとゐまぬうくの名なゝいうゐそや世人をおそまびる
とのゝまびてことれゐふうまくうゐゝおゝ世のふ老人浄居天の化してうく
ゝびけるとなんされバ法れくも心よりみま太子よ老苦を示
そのおゐゝまをこまやうよ居ゝ学ひうん えようゐ
とゝをバ福ごそせのそれを此事をきゝ世のびていとゞ世れ事をい
ゐとゝうおぼしいうそ法園へもおゝゝ轅をめぐらし
て内ふ帰らせのふ大王けことゝをきゝせのび出離れ市志ゝまぜのそ
んことをなき法ううれくなどうせのびうみよおゞしよゐた法法て
たてもおはゝまゝねば又被女を第ゝれ夜屋なぐさめ孫ハ
んと仏志ごゝなどくて又太子出のびて法遊び法んことをこびゐさ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

せるよ大王をきうせまします東門にて老人を御覧じけるよおぼしめすやうなる所をいでゝ御ん
とおぼしめすそのどちやうとてやさせるふことをすこしもねそもきあへ
ぢゆふしきこえさせるふ先御后をはつめさせるひまゝよ此人のひ
しの時老人をんなのふこたびは御人心をひとつにみて路をきよめは
きに御ゆてうくれもてをりを華をちらしあ御門の左右にたゝずみ
病者のごふくきたゞびをまめぞけもてひ只親楽をきそめさせ
るよやうまと勅しのふえようそれ心ねるそ
こものまて此度を南門よりぞ出させるよ御の百官身ちゝが
をまるにてうくだうもよそうかまくらるゝふ物を思そんや御門のる

そこに病人をゆ身やせらこまでそ腹ハそれふまでいきづげ
まあおえぎ骨つき肉きえんとしてみづ〳〵ねうごきやう〳〵二人して
腰をさゝぎてそづたそのふ太子うまはいのおそ
御前よち即ち人これを病人なりとてこのふ
いうな事ぞと宮そせのふ御おれ人病人とのふは老若貴賤をえ
らそ区別まふそのふ飲食も変ぬき時はおれづ〳〵四大調ふらづらこ
み苦しみ出来て頭も重もうせて眠らんとするにいまゝれば或は
百節いたくてまた足もそびうごうれぐよろつにまつせ私だ此の
人れ力をうのやうくま立居しけるそれを見る病人なんぢを
と驚しまふえうのかうやうれことを御身にきこえまるまはいとふく

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　　ガラス使用

いまし　めぐまたまはばなほとあ[illegible]ひとみなそのひねたくつ[illegible]ふよう[illegible]
とをおやすまてかうはこたへなまやうひけり　この病人も浄居天のかれて太子よ病苦を示
たまふ[illegible]太子これをみせうしのれ病人をうなすみあそれませのみえみて
まそくけ世[illegible]ひまこみなこの苦くそにまとそ思しいるれバ世の人樂まの
そふりて是を悪まじ[illegible]やとひ心ふしみとりて思ませのつば
[illegible]身もわなくまて[illegible]なこの身は夫若されなつまれ
ふなの世此中の人こ乃苦く乳中ふ[illegible]ひ[illegible]ことび
たれむいまことにおろふみてそのことをちめ
心ふて[illegible]ふ室よりてたれみなそばんや[illegible]車をめぐくすべくとれさ
まそせて王宮ふのくせまふ是よりめ[illegible]

まそこをたれしませまことおはしはきぐ大王ま[illegible]
よ今日は[illegible]遊[illegible]ふさそ[illegible]ことなうたれ
せのへばなふてほを[illegible]ふ大王ぬせまふ
ひろふぐくませのに東ふて老人あそに思こめて此[illegible]はこと
ちくに通路をきよめちふけずしきれをば[illegible]ちうきありとふせ
ぐとふすくいほめおきそのにをかふことなるべきわざうはこは
警衛[illegible]人の意なわいでかそはとほせきまふて[illegible]
まめて[illegible]そのふみことおのうくよ言そ[illegible]
ほうねまハ分[illegible]ふいほめ[illegible]おそるべきよあそうる
ふほまんもうちくさる病人[illegible]出さほとにハそんぐをのわざこのいとひや

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

しういのなほことごとくおもひほどく仏ぜうのまぐ事にはれバかしこみまどひなげきかなしみとぶらひとむらひとのたうとあどのたうとあどの餐しなを添大王つくづく思惟しまどてれさほうくたてその路次まで病人をかまへてよちうに仏ぜうくはみなつくさまでそまとばうの八兄仏ぜうがすむしうくめくさ紀を芸あとにうにたえ仏ぜうにうきたやうみあどの餐しまふ鬣をまきとしめてさまざまごとふほうぐさ仏ぜうたぐそねみやと今にうくいたう招そまつ仏ぜう観楽せさめよ人を増しし事を増しのふ芸をせみせてその供心ゆうしなほとの芸なとのれ姿羅れ子に憂陀夷といふ仏ぜう心

うく辯皮をえ世の人ほ勝まこ大王芸を讃ひび太子乃其中をいとはうせさせのふことをお面やうに仏ぜうをめぐうの仏ぜうにまこ事をなをりせのふ仏ぜうまをもうさせのふ後しにくひきしてまこ道をよろびたまそんことをおそれさせめべバ憂陀夷仏ぜう朋友とうの世向け五欲の事乃ぎめなきを教々よと説き紀こえ仏ぜうをうごうし出家の仏教をおがしとくおうのふやうにこしらへのくとうくびねつくさせのふもいまそ大子八聰明世みなくびうくおはしまして書論ひろうして家ぜうとこそ芸しをしをしをしいざまバまらん事たとへバ蓮の弟として須弥山をおきうごうさんとするほ

ひとりつげてなのめにきりさるべんやさされど大王はことばすくなくて
そのあるべきことなどなのめで欲見多羅樹の処のさまとくまことと
よせて力をたすけ侍ひとおそばちかくもうもぐひまなくそうの憂陀夷
大王れ勅おもたがひ太子の御ありさまを止まるをも起るをも目
ゐ先おだしくもそなれ常に甚浅太りけるおみ出るひ御指遊びの
らんことを大王へ申さむのみ大王侍れいなむよ思ばせのうへぬうへ今ハ
憂陀夷ゐまばかに出るおとともさまくのやうな法そうへねことは
よまゐ侍ひとおぼしやすんでてみゆるしきこえのひすでにさ死の二
門を出さむのひとをなみうまへ申せのひとして
いよく世をいとはうしのふてそびハ憂陀夷良友乃力ゐてよに甚

ろこびなそびあるて志ううまへのなしませのおことおふへんことをれみ
邪なせのふなのゐと法ゐよくく道路ををさめ御園をつぎゐ香華繒
蓋のりびまへゐ倍しかへびく老病れ者ろ法乃きびれなへすれ法
太子れるさへにあるてやきめなくうかびく若不吉のことあへばもやく
これをりゐやまふと勅しなまひの乃御園へはをろくの妙妓女をおくら
せのふ又憂陀夷はゐまさをへにあめて若ろよ不禅れことゐへば云梁
まませてよきにまぎらしそれ御心たのしませのふやうゐとこまやりれさ
ゐびそへさせのふそれ旨ふ成ゐまゐ憂陀夷もうびまゐ車ゐて西乃
城門よりせいらせ路ふ其道妙なる御香をたきうるつき花をちらし
もろくの妓楽を吹面れたきそうびまゐ車ゐかくおごそ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

のなほ仏ましびなまばよも世こびなき苦しき事の出ちづきならずと又事ほを仰ぐにを出ちせなくてなどもなきにこびれほうよ死人ひろこれを筆ふ載て其死骸のうへよりくれ書花をちらし四人してうきふまう法親戚よ男女あまくおりてこと形さかみて是を送る孔子も浄居天の死苦を悲しびて憂陀夷なる事はひでと宮そせのふされどやまて大王れ勅しみ事の実きをやまれば誤そとういふもとも答へ事ふ称ふこと憂陀夷おりそび死せぼ人なめとやしいなる事を死とはひふと又宮そせのふ憂陀夷その死とやは力形をとき神識はや品體なまて法根ふくびひ人世よ何ぬて

ひさすら五欲ふふやめ紙宝をむさぼり其為ふ辛万苦してだづみふくふ家ことをおこもまて世に世無常ひふことをもくびいらふひしてそやまく命にきぬをば父母眷属ふこびといへどもおひびつくびあうも等ふ来れ必なきふひとり今までこびわきこの法へおきしことを忘とふとしてもこはことなし誠ふ死おだりのなしきれ仰ぐとうもまをれてかうをきりせるひ世間比人みる出法ふと宮せをばこそ仏ふ老若貴賤すべてすぬるそことをはなとやは太子社帝女性常はふ泰山ひごとくもてさ多のひそみぐちふうぐきふ事なきを世語をきりせるひては忽ちおれくき悪をまてこびうえやすんびふ仏事をひそめて憂陀夷はれまいく

世間(せけん)の人(ひと)々(びと)の中(なか)にありまして放逸(ほういつ)の振(ふる)舞(まい)をなし
とを走(はし)り歩(あるき)を見(み)ては其(その)心(こころ)をうばはれ
すばらしき御者(ぎょしゃ)に二門(にもん)を出(いで)させ給(たま)ひ
して路(みち)ばたに大王(だいおう)の老(おい)ぼれ
給(たま)ふを大王(だいおう)御覧(ごらん)ありて
のふいつでもたびたびこれぐらゐの
老(おい)ぼれることなき
めやほの其園(そのその)にいらせ給(たま)ひ
がて王(おう)女(じょ)の霓裳羽衣(げいしょううい)の
うつし心(ごころ)をうごかさんと
そばぢか宮中(きゅうちゅう)に端坐(たんざ)し思惟(しゆい)して侍(じ)衛(えい)の人(ひと)をもつてそこに

よせ給(たま)ふ憂陀夷(うだいこ)世尊(せそん)あやまちをゆるし給(たま)ふべしと
やはらかにことばなく大王(だいおう)勅(ちょく)にしたがひ
られまつりよき所(ところ)へ車(くるま)をやりたびたび
すべき三(さん)の事(こと)一(いち)には色(いろ)二(に)には好事(こうず)あるをもつては
ふつくとびこの二(に)の事(こと)は好(この)まず随意(ずいい)の心(こころ)をおこし三(さん)のおは若(わか)
尼(び)よりさきて相(あい)奉(たてまつ)るなり今我(いまわれ)微妙(みみょう)を執(とら)ん事(こと)なれともく古(いにしえ)仙王(せんおう)より今乃(いまのぞ)至(いた)るまで
欲(よく)楽(らく)をうばひさりて後(のち)にそこに
人(ひと)のうらみ出(いで)きたるものいかれば
これらのことをたちて輪王乃(りんのう)至(いた)尊(そん)
よせ給(たま)ふ憂陀夷(うだいこ)世尊(せそん)あやまちをゆるし給(たま)ふべしと
やはらかにことばなく大王(だいおう)勅(ちょく)にしたがひ
られまつりよき所(ところ)へ車(くるま)をやりたびたび
すべき三(さん)の事(こと)一(いち)には色(いろ)二(に)には好事(こうず)あるをもつては
ふつくとびこの二(に)の事(こと)は好(この)まず随意(ずいい)の心(こころ)をおこし三(さん)のおは若(わか)
尼(び)よりさきて相(あい)奉(たてまつ)るなり今我(いまわれ)微妙(みみょう)を執(とら)ん事(こと)なれともく古(いにしえ)仙王(せんおう)より今乃(いまのぞ)至(いた)るまで
欲(よく)楽(らく)をうばひさりて後(のち)にそこに
人(ひと)のうらみ出(いで)きたるものいかれば
これらのことをたちて輪王乃(りんのう)至(いた)尊(そん)

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

もとぶ國をさる事位をすてゝ道をまなぶ者やハ仏祖ハ大子も
あだし心を引くゝして仁孝社稷をたてさせのび常樂を堅固
たき修事をなをく世をさらにはせさるゝと初をはさらていさめを
つゝくなひて社稷なくまに世ハ中のなゝひさ治ことあるべし
い〻家老志すなうち國を損せざんど居るをや我かとより老病生死の
苦みをおそるゝまゝ五欲をはなれに樂しむれ心安き死よりふ処ハ
背社稷王たち先五欲を強て後ふ出家しのゝ事供養今いぐくま
ゐ拾ふ五欲を愛着しのひにより今地獄ハ畜生ふ貧ほりもゝ〻ろ人天にあるもなりて猫狗の苦みをまぬかれ
のがたきふでも無常ハ必ず来たるべきなまんことをおそりふるのあり

汝家をすゝめてし昔をこもをはせんとすゝ何ぞ朋友ハ信なゝん再び
いふ事なゝれと社稷ひきのそび憂陀夷もまけじ
心をつよめて辯才をたゝふるふといへどもすこしも心をはいさ
なひるごか一まらぐつひふ所あるを立ぬまゝはやのて仔て所車をう
ばゞ宮ふ泊らせのふ憂陀夷はいとなゝ天女とゝ〻あまたの妹女
もおふ志をれ当なくおぼゝ大王憂陀
夷をめしてあきにおそ〻ぐ宮せのふ憂陀夷ハ社城門をふてほど
なく死ぬあゝ王ふ太子と家とのふ分ふゝ〻なくゝ又おぼえず
それと答ゆもゝ事までうもなぎをきゝ〻はるゝがうをまる大王
おゝゝてきせのひさ死といひ今とはたゞ云力社をはめば

おして法話ぜどにほうぶなものの阿私陀の羽いよくむなし
かうぶりを脱ともおそろうともふくおぼしへなをこせのふ
まにまをそなほ嫁女たちもは宵夜をすてぶ心をるぐさめまも
家を出のそんぢんをゆれはせのふやにいざなひまねのとみそ
のたまそす城を出はせのふごとれおそんぢんのみなれば又ぢ
人乃きるやぎなうぶとは絶おぼしまをまなぐうをほいふをして
まにをまも女のそんと称ぐそせのふ心さうとてやむなきこら
ねぐ又ぢ念しのふはて世後ぢ招びをこそをそぐいぐばし
のそんの孔三門は不吉なを今は小門のみひれば又ぢ招びの刹
あはれ乃ぢ宮をとぐ孔くさせのそんなとおぼへぢやごのて

仏ごとろぶめてうため造らせのふことはきぐふ僧せをぢ諸天善
神ふこひのみ引後したよく太子先ふ城を出のふ毎よ憂悩を添し
のふり小門孔宮のあそびうぐばこのなうぐうまへのふことうせ
たまふをと又ぢ者ぢは労ぢ招びうぐばこのなうぐうまへのふことうせ
しきせめちるへあまぐ孔人民乃うまたをも道
すぐぐ孔荘厳みやびをしてなへるをも七こをやうにぢ統ぐさせんを
そ孔心してなど仏ごとなりかうぢ心をしたくちせのふをやしぐなれ
又城外のぢ招びをこせのふえよりぢ心まうけせきをひしなれ
バやごてゆるしきこえはせのひ仏孔憂陀表そ北分あまぐの官屬
前後ふ随ひまりか孔ぢ宮へと出させのふぢ仏乾うそびうぐ厳

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m　ガラス使用

にしてやちんもよの老なのこうびはちうふ心づくしのこひ有て帝
道すゝこのやしきことをつくおそれ給ひいきねやぞ馬よりおそて
せのひやすらえせのひと何ごに樹れ本に旅宿
をもとめえせこの乃世間有漏の苦患を念じのふでわつなきをも
しもいづこよりまたるもんひとうれ妙門あるを身ふ袈裟衣を著を
て鉢と錫杖をとり地をへてあゆみやすら太子れ御前にたて
里太子ゆ後じてはは何人ぞととえせのふ翁は比丘なりといふいの
なるをこの比丘とはいふこゝていえくよく煩悩賊をほろぼしふこび
後飯をうきこゝ此ゆふ比丘といふなり世間のさはみな悉く常な
うして危脆あり系像しまなふ処れ無漏聖道は色声香味觸

法ふ著せこ無為を得て解脱れきしにのた法はなきをいひを
里ゆもち前ゝ神通力をあらはし虚ふれぼめてはれめ御前
天の太子に佛乃をふしまふなふと法ふ御前ちうう志ごびあつまれ
其ゆ又出家れ功徳を説せのふをきてて頭長ていえや太子はとく
よめ生老病死を念じのび五欲れたのしみをいとひのふ心ないの
でうかなはゞゝん善哉て天人乃中たゞうえ道れすゝれたなり我快
定して此道を修しまるだんとれさゆひ御脱なのめあるゝ何乃御
招びもせちせのえ尽ゆ馬引てうちれゆ
のふ今まで四苦れまぬれゞゝき事をえ受なをせのひ
に乃比丘緋脱の路をはとうまひしをよろこびおばしていて方便

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

して出家し閻浮を
夷に赤雲あかまをとそせの
こまやの妻し菩薩大王いせのふ
旦のぬ太子せいよく決定して出家せ
志し浄飯王乃ちいとで悩乱しのひせめては耶輸陀羅まくを
よびまのせたまひてまご阿子ぶにおそし浄きぬ事をわりなくも
せめなをこのせのひ太子は出家學道の志いよくふかし浄
すなの孔雀の王ぢの座をかうしのひて御衣のうちより金色
やうなるめれ乃せ手をひそ世すぢ乃心ちひそそれかに
これ誰ちはこのをても浄ことにそほぢしとめ第しせんいうでおろそうん

ハなどのうすぐいほしめこうらひのふまくこれを安せのひてこうしけるき浄ことに孔雀のかの座をうしうそうぐしき浄いくも志伝のおそひ光よのひとぐ太子乃浄うくをころりとなう都ぼしまちくせのひはちぢう孔ぢをまき宮乃うちもたちの安このくひぐ今しそ事ぜ出きんくん
やうに浄心ひとつふおぼしあやぶみのうんして志ぐしくも浄うくを
ぢらせ孔そひ

国立国会図書館　タイトル『三世の光』 請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三世の光』　請求記号 182. 85-Ko518m

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三世の光』　請求記号 182.85-Ko518m
ガラス使用